



GRAND HOTEL EUROPE
ST. PETERSBURG

by ORIENT-EXPRESS

グランド・ホテル・ヨーロッパ 10の歴史的スイートをリニューアルオープン

2009年6月



サンクト・ペテルブルグのグランド・ホテル・ヨーロッパは、大規模修復プロジェクトを経て10室の歴史的スイートをリニューアルオープンいたしました。ホテルの「ヒストリック・フロア」にあるスイートは、パヴァロッチェ、ストラヴィンスキー、ファベルジェ、ロマノフ等、ロシアの歴史に由来する名前がつけられ、ホテルとサンクト・ペテルブルグの町の歴史を反映させ、それぞれの名前にちなんだ内装が施されています。

全てのスイートは、55㎡から97㎡の広々とした作りで、天井も4.3mと高く、玄関ホール、リビングルーム、ベッドルーム、さらにゆったりとしたバスルームが備わります。窓からは、偉大なる詩人アレクサンダー・プーシキンの像が建つ、絵画のような美しいサンクト・ペテルブルグの歴史的な中心地、芸術広場とノーブル・アセンブリーの建物をご覧いただけます。

これら歴史的なスイートは、フランス人デザイナーのミシェル・ジュアネによる修復作業により、19世紀のスタイルや特徴を残し、その魅力を生かすことが可能となりました。ジュアネはヴェネツィアのホテル・チブリアーニとリオ・デ・ジャネイロのコパカバーナ・パレスを手がけたことでも有名です。グランド・ホテル・ヨーロッパは国民的かつ文化的な名所として位置づけられており、歴史的建造物として保全する準備も進められています。

No.105 パヴァロッチェ・スイート：有名なイタリア人テノール歌手にちなんだこのスイートは、彼が2004年のファイナル・ツアーの際に滞在していたことからその名前がつけられました。この部屋の中央にはアンティークのグランドピアノが置いてあるため、これまで常にミュージシャンに愛されてきました。またその内装はパリのオペラ座（ガルニエ宮）やイタリアのスカラ座のような世界一のオペラハウスのスピリットを彷彿させるスタイルです。部屋はゴールドとレッドを基調とした色使いで、バスルームは対照的な黒とピンクの大理石を使用しています。

No.107 ドストエフスキー・スイート：かつてこのホテルに頻繁に滞在していたフョードル・ミハイロヴィチ・ドストエフスキーにちなんで名付けられたスイートです。ロシアの偉大なる作家の雰囲気を生かすべく、デザイナーはフレッシュでありながら、深く、控えめなトーンの色を選びました。壁は19世紀のスタイルパターンを使用した壁紙で飾られ、リビングルームには執筆のための大きな机が置かれています。

No.109 インペリアル・ヨット・スイート：豪華な内装で人々を驚かせたロシアの帝室ヨット「デルジャーヴァ号」にちなんで名付けられた部屋です。ベースはマリンカラーで彩られた部屋ですが、バスルームはグリーンとクリーム色の大理石でまとめられています。



No.112 ファベルジェ・スイート：カール・ファベルジェはロシアの有名な宝石商です。このスイートのインテリアは最上級を極め、彼の作品を生かしたデザインが随所に施されています。部屋のカラーは、ピンク、ライラック、そしてゴールドが基調で、貴石や緑青がちりばめられた、オフホワイトの明るい色の家具が設置されています。

No.113 マリンスキー・スイート：かの有名なマリンスキー劇場と、アンナ・パヴロワや振付師のマリウス・プティパ等、劇場で活躍してきた当ホテルのゲストたちに敬意を表して名付けられたスイートです。音楽やバレエの世界に携わる輝かしいゲストのリストには、他にもピョートル・チャイコフスキー、ヨハン・ストラウス、セルゲイ・プロコフィエフやドミトリー・ショスタコーヴィチなどが名を連ねています。スイートは、マリンスキー劇場の内装と同じ薄いブルーが使用され、劇場のような雰囲気醸し出しています。

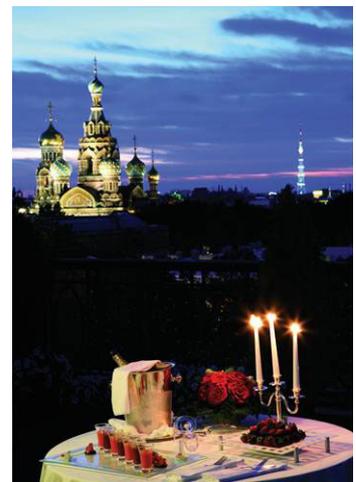
No.119 ストラヴィンスキー・スイート：偉大な作曲家、イーゴリ・フョードロヴィチ・ストラヴィンスキーがアメリカに移住した後、48年ぶりにロシアに戻った際に滞在したのがグランド・ホテル・ヨーロッパ(当時はエフロペイスクヤ・ホテルという呼称)でした。ストラヴィンスキーの音楽は「春」や「目覚め」といったキーワードでよく表現されているために、部屋の内装も春を思い起こさせるような明るい新緑の色を基調にし、バスルームもグリーンの大理石を使用しています。

No.121 ロマノフ・スイート：ロシア帝国を統治していたロマノフ家は、ホテルのよきゲストでもありました。またロマノフ朝最後の皇帝(ツァーリ)のニコラス2世は外交使節接見にもホテルを利用していました。このスイートは、まるで宮殿のような雰囲気があり、豪華なゴールドのモールディングが施されたアンティークの家具で飾られています。

No.123 ロッシ・スイート：ホテルの外観をはじめ、ホテルの建つミハイロフスカヤ通り、及び芸術広場に隣接する建築物をデザインした建築家、カルロ・ロッシにちなんで名付けられたスイートです。 Санкт・ペテルブルグ市内にある彼の数々の素晴らしい作品同様、部屋は「ロッシ」らしい白と黄色でまとめられています。

No.125 アンバー・スイート：世界八番目の不思議とさえうたわれる、ツァールスコエ・セローに建つエカテリーナ宮殿内にある「琥珀(アンバー)の間」に敬意を表して名前をつけられたのがアンバー・スイートです。名前の通り、あたたかみのある琥珀色を用いた部屋で、バスルームはピンクとイエローの大理石を使用しています。

No.127 リドヴァル・スイート：20世紀初頭に Санкт・ペテルブルグで活躍していたアールヌーヴォーの天才建築家、フョードル・イヴァノヴィチ・リドヴァルにちなんで名づけられたスイートです。リドヴァルは1908年から1914年にわたり、グランド・ホテル・ヨーロッパの内装の新デザインを手がけました。このスイートには、広々としたリビングルームと小さな温室のベランダがついています。



ヒストリック・スイートは1室・1泊、RUB 51,480 (約1,013ポンド / 158,000円) よりご利用いただけます。



GRAND HOTEL EUROPE
ST. PETERSBURG

by ORIENT-EXPRESS

オリент・エクスプレスに関して:

オリент・エクスプレスは、1976年、オリент・エクスプレスの創業者、ジェームス・B・シャーウッドがイタリア、ベニスの伝説のホテル・チプリアーニを購入時に誕生しました。

翌年、2輦のオリент急行車輦を購入、その後ヨーロッパ各地に散在していた車輦を購入、修復し、1982年に、ベニス・シンプロン・オリент・エクスプレスとしてロンドンからベニスまで運行を開始し伝説が蘇りました。現在、オリент・エクスプレスは五大陸、世界25カ国にわたり、51のホテルを所有、または一部所有し、運営しています。

南アフリカ、ケープタウンのマウント・ネルソン、ブラジル、リオのコパカバーナ・パレス、ロシア、サンクトペテルブルグのグランド・ホテル・ヨーロッパ、メキシコ、リビエラマヤのマロマリゾート&スパなど世界各地に素晴らしいリゾートを、また、ニューヨークの伝説的なレストラン「21」を含む2つのレストラン、2つのリバークルーズ、6つの列車を展開しています。

オリент・エクスプレスのプロパティーはいずれもたいへんユニークで、その多くが世界的に知られる風光明媚なロケーションに位置し、究極のラグジュアリーな旅の体験とサービスを提供しています。

オリент・エクスプレスの詳細は、
www.orient-express.co.jp でご覧いただけます。

このプレス・リリースに関するお問い合わせ、資料送付のご希望は、
オリент・エクスプレス・ホテルズ・トレインズ&クルーズPR代理店、ケントス・ネットワークまでご連絡ください。
: 03-3403-5328 / e-mail: info@kentosnetwork.co.jp
<http://www.kentosnetwork.co.jp>